

実践のまとめ（第6学年 外国語科）

長岡市立関原小学校 教諭 永見 佳央里

1 研究テーマ

実際のコミュニケーションにおいて思考・判断・表現する力の育成

2 研究テーマについて

(1) テーマ設定の意図

現行の学習指導要領では、「未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力」の育成が求められている。外国語の学習においては、単に語彙や文法などの知識・技能を身に付けるだけでなく、文化や社会を理解するとともに、コミュニケーションの目的や場面などを考慮して自分の考えをまとめ、表現する、言語活動が欠かせない。これまで、児童に自信をもって言語活動に取り組んでもらいたいという思いから、言語材料を使う練習を重ねた上で単元のゴールの活動に取り組ませる、積み上げ型の指導を行ってきた。児童は外国語の学習に前向きであり、活動に意欲的に取り組んでいる。しかし、間違いを恐れて正解を知りたがる傾向があり、コミュニケーションに対する自由な発想や主体性を十分に育むことができていなかった。日々の指導が教師主導であり、他者の発する外国語を注意深く聞いて何とか相手の思いを理解しようとしたり、もっている知識を総動員して他者に外国語で自分の思いを伝えようとしたりする経験が不足しているからだと考える。

本研修を通して、実際のコミュニケーションで思考・判断・表現する力の育成を目指す。伝え合う相手・目的のある本物のコミュニケーションの場を設定し、児童が今ある知識を最大限活用して理解したり表現したりすることができる授業を実践したい。

(2) 研究テーマに迫るために

① 本物のコミュニケーションの場の設定

授業が児童にとって本物のコミュニケーションの場となるよう、「留学生とお互いの町の魅力を伝え合う」活動を設定する。伝え合う相手や目的を明確にすることで、よりよく伝えるためにはどうすればよいか考えさせたい。また、留学生との交流は、英語を介したコミュニケーションの貴重な機会となる。手紙を読んだり話を聴いたりする中で外国の文化に対する理解を深めるとともに、英語、ジェスチャー、写真など様々な情報からその場で相手の伝えたい内容を理解し、相手に自分のことを伝えたいという意欲の向上を図りたい。

② 見方・考え方を働かせる学習過程の工夫

児童が実際のコミュニケーションと同様に見方・考え方を働かせて思考・判断・表現することができるよう、単元の最初の授業からおすすめスポットの魅力紹介にチャレンジさせる。新出語句の復唱やパターンプラクティスなどの練習活動を行わずに表現活動に取り組ませることで、自分の知識を総動員してなんとか相手に伝えようとする姿勢を育成する。「英語でどう表現するのだろうか？」という児童の疑問はクラスで共有し全体で考えることで、様々なアイディアに出会わせ、自由で柔軟な発想力を育てたい。

③ ICTを活用した英語表現の蓄積

新しい表現に出会い、その場では理解が深まったり表現の幅が広がったとしても、それらを児童が記録し継続して活用することは難しい。そこで、教師や児童のおすすめスポット紹介動画、デジタル教科書のチャンツやリスニング等で登場した表現を蓄積する。動画で学びの姿を見ることで、表現内容や発表方法の改善点に気付かせる。ま

た、他の児童や指導者、留学生による町の紹介動画を視聴することで、言語・非言語による様々な表現方法に出会わせ、自身の考えを広げ深め、自分の発表に生かすよう指導する。

(3) 研究テーマに関わる評価

① 児童の振り返りの見取り

- ・ 児童の振り返りシートに、「知っている英語を使って表現することができた」、「少しわからない語があっても、内容を理解することができた」、「(伝えること・理解すること)にチャレンジできた」、「前よりも表現(理解)することができた」などの記述が認められるか。
- ・ 単元終了時のアンケートで、他者の発表動画を参考にしたと答える児童がどの程度認められるか。

② 発表内容

- ・ パフォーマンステストでA評価を獲得する児童がどの程度認められるか。
- ・ 児童の発表内容に、変更が認められるか。

3 単元と指導計画

(1) 単元名

留学生に長岡市のおすすめの場所の魅力を紹介しよう。(Here We Go! 6年 光村図書)

(2) 単元(題材)の目標

- ・ 場所や施設の紹介に必要な言語材料について理解し使うことができる。【知識・技能】
- ・ 留学生の思いをふまえて、既習表現を使いながら、長岡市のおすすめの場所でできることや自分の思いを伝えることができる。【思考力・判断力・表現力】
- ・ 留学生の思いをふまえて、既習表現を使いながら、長岡市のおすすめの場所でできることや自分の思いを伝えようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】

(3) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・ 場所や施設を表す英語や、In ～, we have ○○. You can ～. It's ～. の表現について理解している。 ・ 長岡市のおすすめの場所について、場所や施設を表す英語や In ～, we have ○○. You can ～. It's ～. を用いて、考えや気持ちなどを話す技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 留学生が長岡市での暮らしをより一層楽しむために、長岡市のおすすめの場所について、簡単な語句や基本的な表現を用いて、考えや気持ちなどを話している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 留学生が長岡市での暮らしをより一層楽しむために、長岡市のおすすめの場所について、簡単な語句や基本的な表現を用いて、考えや気持ちなどを話そうとしている。

(4) 「話すこと【発表】」に焦点をおいた単元の指導計画と評価計画(本時3/9時間)

次(時)	目標◆・活動○	評価			
		知技	思判表	主体性	評価基準(評価方法)
1	◆地域にある施設・ない施設について、聞いたり話したりすることができる。				
(1)	【Story】p60 物語の概要をつかむ。				

	<input type="checkbox"/> 留学生からのメッセージを読む。 <input type="checkbox"/> Teacher Talk 地元のおすすめの場所① <input type="checkbox"/> ブレインストーミング <ul style="list-style-type: none"> ・留学生に紹介する場所の候補を挙げる。 <input type="checkbox"/> リポーターチャレンジ <ul style="list-style-type: none"> ・ブレインストーミングで出てきた場所の中から1つ選び、クラス全体でレポートにチャレンジする。 <input type="checkbox"/> 振り返り（本時の活動を振り返り、振り返りシートに記入する）					<div style="border: 2px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px;"> <p>第1～9時では、記録に残す評価は行わないが、目標に向けて指導を行う。児童の学習状況を記録に残さない活動や時間においても、教師が児童の学習状況を確認する。</p> </div>
(2)	◆ 留学生の思いをふまえて、おすすめ場所の紹介に必要な資料を集める。 <input type="checkbox"/> 留学生からのメッセージの振り返り <input type="checkbox"/> Teacher Talk 地元のおすすめの場所② <input type="checkbox"/> ペアで次回紹介するおすすめ場所を決め、情報や写真資料を集める。 <input type="checkbox"/> 振り返り					
2	◆ 知っている語句を用いて、おすすめ場所の魅力を紹介することができる。					
本時	<input type="checkbox"/> 日本の行事クイズ <input type="checkbox"/> Teacher Talk 学級担任おすすめ場所 <input type="checkbox"/> 町リポチャレンジ <ul style="list-style-type: none"> ・おぐに森林公園の町リポをクラス全体で考える。 ・ペアでおすすめ場所の魅力を紹介する町リポにチャレンジし、録画する。 ・複数の児童の動画を全体で視聴する。 <input type="checkbox"/> 振り返り					
(2)	◆ 自分の町にあるものやないものを英語で伝えたり、聞いて理解することができる。 <input type="checkbox"/> Teacher Talk 地元のおすすめの場所③ <input type="checkbox"/> 前回の動画を視聴する。 <input type="checkbox"/> おすすめ場所を紹介しよう！ <ul style="list-style-type: none"> ・場所ごとにチームを作り、おすすめ場所の魅力紹介の内容を考える。 <input type="checkbox"/> 発表の様子を録画 <input type="checkbox"/> 振り返り					
(3)	◆ 他者の発表を参考にして、おすすめ場所の魅力がよりよく伝わるよう、工夫して発表することができる。 <input type="checkbox"/> 前回の動画の視聴 <ul style="list-style-type: none"> ・よりよい発表にするために、各班の動画のいいところ・改善点を出し合う。 <input type="checkbox"/> チーム同士で発表 <ul style="list-style-type: none"> ・相手を変えながら繰り返す。 					
(4)	◆ 留学生の思いをふまえて、長岡市のおすすめスポットの魅力を紹介することができる。					

	○長岡市のおすすめスポットの魅力を発表する。 ○留学生の出身地に関する発表を聞く。				
3	◆留学生にお手紙を書こう				
(1)	○前回の発表の振り返り ○留学生への手紙の作成 ・交流の内容を振り返る。 ・留学生のプレゼンテーションの感想を、英語でどう伝えればよいか考える。 ・英文にまとめ、手紙を作る。				
(2)	◆外国人に長岡市の魅力を知ってもらうために、どの施設を取り上げ、どのような魅力を紹介するか考えることができる。 ○町紹介スライドの作成 ・もし外国人に長岡市のおすすめの場所を聞かれたら、どの場所を選び、どのように紹介するか考え、スライドを作る。				
(3)	◆長岡市のおすすめの場所の魅力を、一人で発表することができる。 【Let's listen】 p62 建物の名前を聞き取る ○Teacher Talk ・長岡市のおすすめスポット 3 選 ○おすすめの名所の魅力を伝え合う。 ・おすすめの名所を、写真を見せながら思い付きで紹介する。 ・外国人になりきって相手の発表を聞き、反応したり質問したりする。				
(4)	◆長岡市のおすすめの場所の魅力を、一人で発表することができる。 【Let's listen】 p64 できることを聞き取る ○複数の児童の発表内容を紹介する。 ○よりよく相手に伝えるためにチャレンジすることを考える。 ○おすすめの名所の魅力を伝え合う。 ・おすすめの名所を、写真を見せながら思い付きで紹介する。 ・外国人になりきって相手の発表を聞き、反応したり質問したりする。	発	発	発	知識・技能 ・英語を適切に用いて長岡市の魅力を紹介している。【パフォーマンステスト】 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度 ・様々な表現を取り入れたり、伝える内容を整理するなどして、よりよく伝わるよう工夫して発表している。（しようとしている）【パフォーマンステスト】

4 単元（題材）と児童

(1) 単元について

本単元のテーマは、自分の住む町の紹介である。行きたい国を伝え合う5年生のUnit 6 “Where do you want to go?” や、日本の文化を紹介する6年生Unit 2 “Welcome to Japan!” を、自分の町紹介に応用したものに位置づける。世界の国々の町の紹介を見ながら、自分の住む町の魅力について改めて考え、発信する良い機会と捉える。デジタル教科書の音声・動画資料にはこれまでの単元で学習してきた We have ～. や You can ～. / It’s ～. などの他、Do you know ～? などの質問も発表に取り入れられている。未習表現も含まれるが、視覚情報や知っている語句から類推することが可能であると考え。

(2) 児童（生徒）の実態

6年生Unit 2の学習では、多くの児童が既習表現を用いて日本の行事を紹介することができた。写真を用いた show and tell 形式の発表はこれまでも数回行っており、児童は発表に意欲的に取り組んできている。しかし、発表内容や表現の幅には個人差がある。

施設や建物の名前は初出であり、児童が英語でどう表現すればよいか考える題材に適している。Unit 2で日本の行事クイズを行った際には、英語でヒントを出し合うことを楽しむ様子が見え、一方で、語句の直訳にこだわり、思うように表現することができない児童もいた。この単元の学習を通し、細部にこだわらず、柔軟な発想で、自分の伝えたいことを英語で表現しようとする姿勢を育みたい。

5 本時の展開

(1) ねらい

長岡市の建物や施設について、そこでできることやその施設の魅力を英語で表現する。

【思考・判断・表現】

(2) 展開の構想（令和4年10月31日実施）

ウォームアップで日本の行事クイズを行い、季節やできること、感想等を伝える表現を復習する。学習した英語を思い出すことができるよう、Unit 2で児童が作成したプレゼン資料をクイズのカードに使用する。授業の前半では、学級担任の出身地のおすすめの場所の紹介動画を参考にして、指導者が地元のおすすめの場所の紹介に挑戦する。スライドの情報をもとに自分ならどう表現するか児童に考えさせ、出されたアイデアを実際に用いて指導者が紹介することで、自由な発想で表現する意欲を高めたい。授業の後半は、長岡市のおすすめの場所の紹介に、ペアで挑戦させる。その際、学級担任や指導者の紹介の様子を参考にすることができるよう、録画した動画を児童の端末と共有する。英語が苦手な児童も表現活動に取り組みやすいよう、①モデル動画の視聴②クラス全体で1つの場所について英語で表現する③動画を参考にしながらペアで表現する、の順でスモールステップで学習を進める。また、町リポチャレンジでは、児童の「言いたいけど英語がわからない」という疑問をクラス全体で共有し、既習語句を用いてどう表現すればよいか考えさせたい。

(3) 展開

時間 (分)	◎学習活動	○学習内容 T: 指導者の発問 S/Ss: 予想される児童の反応	□評価 ○支援 ◇留意点
(5)	◎あいさつ ◎週末トーク	○体調、天気、曜日、日付の確認。 ○指導者が週末の出来事について話す。	
(3)	◎復習	○前回までの学習内容の確認 ・留学生からのメッセージの内容・クラスで考えたおすすめスポットについて振り返る。	○4線に合わせて書くよう、机間支援する。

(7)	◎ウォームアップ	○日本の行事クイズ ①指導者がヒントを出し、児童は何の行事について述べているか考える。	
<p>T: It' s not in spring, not in summer, not in winter. We have it in fall. You can enjoy hiking. It' s fun. You can see beautiful trees. Red, orange, yellow... They are colorful! (答え：紅葉狩り)</p>			
		Ss: 遠足?紅葉狩り? ②ペア同士でクイズを出し合う。カードに書かれた行事でできることなどを一方のペアが英語で伝え、もう一方のペアが何の行事か答える。	○表現方法に困っている児童を支援する。
(5)	◎Teacher Talk	○地元のおすすめスポット紹介 ・学級担任の出身地のおすすめの場所の紹介(町リポ)を録画した動画を流す。	
<p>Hello! Welcome to Kashiwazaki! In Kashiwazaki, we have Fisherman' s Cape. You can buy fresh fish. You can see nice view. It' s beautiful. You can eat <i>hamayaki</i>. <i>Hamayaki</i> is fish BBQ. I like <i>hamayaki</i>. It' s delicious. Please come and visit Fisherman' s Cape.</p>			
		T:どんな風に紹介していた? S1:お魚が買える。 S2:景色がきれい。 S3:浜焼きを fish BBQ って言った。	○浜焼きの英語表現に着目させる。
(5)	<p>本時の目標 知っている英語を使って、おすすめの場所を紹介しよう!</p>		
◎町リポチャレンジ①	○指導者の地元のおすすめの場所のホームページの内容から、紹介を考える。 T:温泉があつて、お刺身や山菜が食べられるんだけど…皆さんだったらどんな英語で表現する? S4:お刺身は Fish. You can eat fish. S5:Fresh fish とか? S6:山菜は…Mountain vegetable? S7:温泉は…Hot water? S8:Big bath はどう? You can enjoy big bath. T:Nice idea!皆さんのアイデアを参考に、紹介してみます!		◇指導者がどう表現すればよいかわからない様子を見せ、児童に知っている語句を用いた表現を試みさせる。 ○児童のアイデアを板書する。
<p>Welcome to Oguni. We don' t have shopping mall. We don' t have an amusement park. But, we have Oguni Shinrin Park. It' s a big park. I sometimes went to this park in summer. You can enjoy <i>onsen</i>. It' s hot water. A big bath. It' s good. I love <i>onsen</i>. You can eat <i>sansai</i> and <i>osashimi</i> lunch. <i>Sansai</i> is special vegetable in mountains. <i>Osashimi</i> is fresh fish. They are very delicious!</p>			
(15)	◎町リポチャレンジ②	○長岡市のおすすめの場所を選び、リポーターになりきって紹介する。 ①おすすめの方法についてどう表現すればよいか、ペアで考える。 ②おすすめの方法を紹介する様子を録画する。	○児童の質問をクラス全体で共有し、どう表現すればよいか考えさせる。 □知っている表現を用いておすすめの方法の魅力伝えることができるか。【行動観
<p>Hello! We have Aoshima ramen. It' s a ramen shop. You can eat Nagaoka Shoga Joyu ramen. It' s delicious.</p>			
Shoga is a ginger.		Shoyu is Japanese sauce. It' s salty.	

			察・ワークシート】
(5)	◎振り返りカードの記入 ◎次回の学習内容の確認	○カードに本時の振り返りを書く。 ○次回の学習内容を児童と確認する。 S9: 写真を用意したい。 S10: もう少し発表内容を考えたい。 S11: 建物の英語が知りたい。	

6. 実践を振り返って

(1) 授業の実際（指導の実際）

① 既習表現を用いて、おすすめスポットの魅力を紹介する。（第1次）

第1時では、留学生からのビデオメッセージを見た。多くの児童が内容をほとんど聞き取れない様子だったが、Nagaokaが何度も出てきたことから、長岡の町について知りたがっているのではと理解していた。おすすめスポットとしてどこを紹介するか考える際には、「○○は長岡以外にもあるのでは」「でも、アニメやゲームなどの日本の文化に触ることができるから、紹介していいと思う」など、留学生のニーズに応じて紹介する場所を考えていた。

第2時では、Teacher Talkで学年職員のおすすめスポットの紹介を見た後、前回挙げられた15か所のおすすめ情報に関する写真を各自の端末で調べ、クラスの共有フォルダ内におすすめスポットごとにフォルダを作成し、保存した。

第3時のウォームアップでは日本の行事クイズを行った。You can ～. などを用いてできることを積極的に伝え合う班がある一方、互いに表現できずに活動が滞る班も散見された。

授業の前半は、Teacher Talkを見た上で、小国森林公園の写真を見ながらどう紹介すればよいか考えた。「温泉」「山菜を食べられる」をどう表現すればよいか問いかけたところ、hot water bath / big bath / You can eat mountain vegetable. などの表現が挙げられた。また、ウサギ小屋の写真を見て、rabbit house / You can see rabbit. などと表現していた。

後半は、おすすめスポットをペアで1つ決め、紹介することを試みた。しかし、多くのペアが場所を決めることに時間がかかり、紹介する活動ができなかった。ある児童の振り返りカードには、「お互いに行ったことのある場所や好きな場所が違うため、場所を決めるのが難しかった」との記述があった。

また、「休憩所」をインターネットで検索しているペアがいたため、最後にクラス全体に、どう表現すればよいか投げかけた。市役所の休憩コーナーということを確認した上で、どのような表現が考えうるか問いかけたところ、児童から sleeping や You can drink water. / cafeteria / toilet などの表現が挙げられた。教師から4年生時に学習した restroom も使えると示した。

② Teacher Talk やデジタル教科書を参考に、グループでおすすめスポットの魅力を紹介する。（第2次）

第4時以降は、一番おすすめしたい場所ごとにグループになり、発表内容を考えた。班の人数は1名～5名、全9班に分かれた。

各自の端末に送られた Teacher Talk の町紹介の動画やデジタル教科書のチャンツの歌詞のスライドを見て、発音や表現方法を確認する児童の姿が見られた。また、日本語を検索する児童も散見された。「なるべく知っている英語を用いて表現しよう」と伝えたとこ、1文まるごと検索せず、単語を調べて今まで学習した表現と組み合わせて使う児童が増えた。Unit 2 で出てきた You can enjoy fireworks. といった表現の他、ふわふわドーナ

ムを trampoline と表現するなど、知っている語を用いて工夫して表現しようとする姿が見られた。

第6時に、留学生との交流授業を行い、各グループが8～20文の英文を用いておすすめスポットの紹介を行った。Welcome to ～. や In Nagaoka, we have ～. / In spring, ～ / You can ～. / It's ～. / I like ～. などの表現を組み合わせで紹介しており、昨年度に比べて話す英文の量が増え、表現も豊かになった。しかし、留学生に質問したグループはなかった。他に指導している4クラス中3クラスでは、ほとんどのグループが Do you know ～? や Do you like ～? といった質問を取り入れていた。これらのクラスのうち、1つのクラスでは、質問を取り入れたやり取りを第5時で行った。また、2つのクラスでは、質問を取り入れた町紹介を他の職員と1対1で行っている様子を録画し、児童に見せ、児童の端末にも送っていた。

③ 他者の発表を参考に、個人でおすすめスポットの魅力を紹介する。(第3次)

第7時では、留学生への感謝の手紙を作成した。「フルーツが食べてみたい。」「豹や象がいてすごかった。動物を見てみたい。」「季節がないのが面白かった。」などの感想が挙げられた。英語でどう伝えればよいか考え、We want to eat jackfruits. / We want to see animals. / No seasons... interesting! などの英文を組み合わせで手紙を作成した。その後、第8時まで個人でおすすめスポットの紹介スライドを作成した。

第9時では、個人でおすすめスポットの紹介を行った。授業の最初にグループでの発表動画を視聴し、Teacher Talk では児童の集めた写真から複数選んで児童とやりとりしながら3か所について紹介した。後半は、「原稿は用意せず、その場で思いついた表現で紹介しよう」と伝え、パートナーを変えながら個人でおすすめスポットの紹介を行わせた。最後に発表の様子を児童同士で録画した。

第10時では、いくつかの児童の動画を紹介し、良いところを伝えた上で、よりよく伝えるためにどんなことにチャレンジするか、ワークシートをもとに考えさせた。その後、パートナーを変えながら1対1での発表を繰り返し行い、最後に発表の様子を児童同士で録画した。

(2) 研究テーマにかかわる評価

(i) 振り返りの見取り

① 児童の振り返りの記述

第1時の振り返りでは、「伝えることができなかった。」「紹介するための方法が知りたい。」などの記述が多く見られた。

グループ発表を行った第6時の振り返りには、「〇〇さん(留学生)に長岡花火館について伝えることができた。次は一人で発表なので、長岡のおすすめスポットをもっと紹介したい。」「〇〇さん(留学生)に発表したいことが伝わってよかった。質問すればよかった。次は質問したい。」「メモを見ながら話してしまった。次は相手を見て伝えたい。」などの記述があり、達成感を感じた様子や、もっと豊かに表現したい、相手を意識してやり取りしたいという意欲が感じられた。

第9時の振り返りでは、「思いつきで話すことができた。」「なにか文章を用意しなくてもすらすら話せるようになった。」「突然おすすめの場所を聞かれても言えるようになった。」などの記述から、原稿を用意せず紹介できたことが自信につながったと考える。

② 単元終了後のアンケート

表1から、多くの児童が知っている英語を用いて、自分で考えて紹介できるようになったと感じていることがわかる。

図1によると、第3次では、「今までのプリント」、「自分のグループの発表」や「他者の発表」、「インターネットでの検索結果」などを参考にしている児童が多かった。また、教科書はあまり活用されていないことがわかる。

図2からは、発表動画を参考にする児童が多かった一方、Do you like ~? などのやり取りを録画した動画はあまり活用されなかったことがわかる。

表1 単元終了後の児童アンケート集計結果

(質問1) 知っている表現を用いて紹介することができましたか。

知っている英語を用いて、何も見ないで自分で英文を考えて紹介することができるようになった。	50%
他の人の発表や今までのプリントを参考に自分で考え、知っている英語を用いて紹介することができるようになった。	42%
他の人の発表や今までのプリントを参考に、他の人と相談すれば、知っている英語を用いて紹介することができるようになった。	4%
知っている英語を用いて紹介することは、まだ難しい。	4%

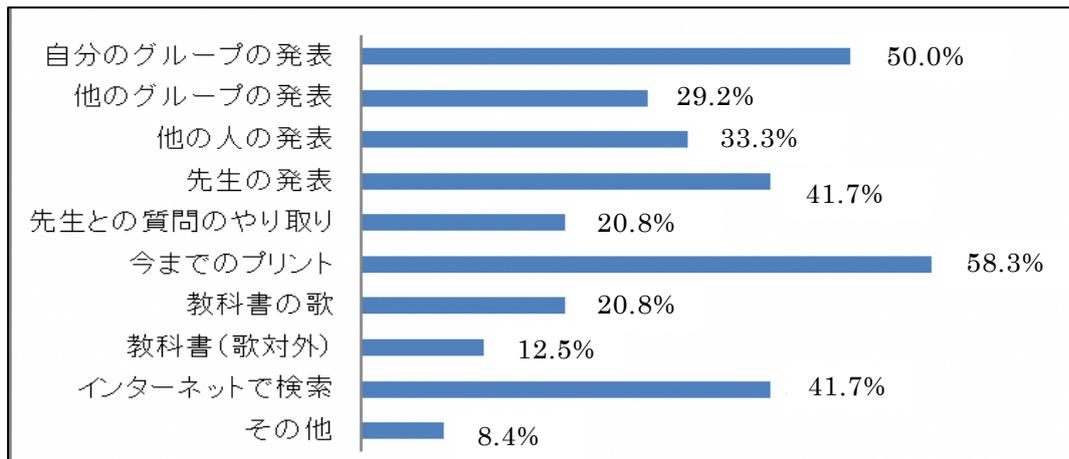


図1 (質問2) 自分のおすすめスポットを紹介する時、何を参考にしましたか。(複数回答可)

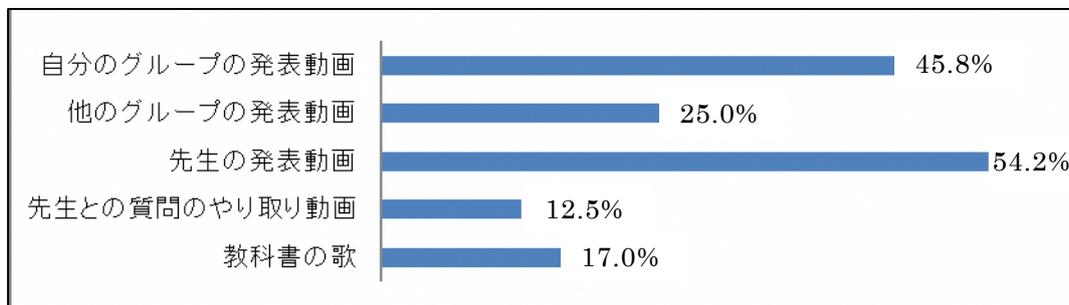


図2 (質問3) オクリンクで参考にした動画やスライドを選んでください。(複数回答可)

(ii) 発表内容

① 発表内容の変容

多くの児童が4枚以上のスライドを作成しており、英文の分量は、4文~15文(平均8文)と昨年度に比べて増加した。また、「ふわふわドーム」を jumping dome / white

trampoline と表現するなど、多くの児童が知っている言葉を組み合わせて表現していた。しかし、グループ発表に比べ、1回目の個人発表（第9時）では、各自が使う表現に偏りが見られ、文法的な間違いも散見された。様々な表現を使用していた3名の児童のプレゼンテーション内容を全体に紹介した後に行った2回目の個人発表（第10時）では、複数の児童の語彙や表現の幅に広がりが見られ、より正確な表現になる児童が多かった。一方、1割ほどの児童は内容がほとんど変わらなかった。また、Do you know ~?などのやり取りを入れた児童は2割弱にとどまった。

図3～5は、各児童の個人での発表内容の変容である。どの児童も、グループ発表で用いた表現を取り入れて発表している。児童Aは英語が得意で、日頃の授業でも多く発言し、学習をリードする存在である。今回の発表では、1回目と2回目で異なる場所を選び、他の児童の表現も取り入れて紹介した。児童Bは、話すなどの表現活動にあまり意欲的でない。今回の発表では、スライドを多く用意していたため、初回から8文の英文で紹介することができた。また、2回目の録画では、1回目で迷いのあった部分も自信をもって発話していた。児童Cは、英語に苦手意識をもっている。1回目の録画では、ほとんど話すことができなかった。指導者や他の児童とのやり取りを終えた後の2回目の録画では、使用する語句に偏りがあるものの、何も見ないでスムーズに話すことができていた。

<p>【1回目】 Welcome to Nagaoka. This is Yukyuzan park. We can see monkey's castle. Monkey's castle is monkey's house. Peacock sometims open wings. We can go to restraunt. We can enjoy slide. Slide is very long. Thank you!</p>	<p>【2回目】 Welcome to Nagaoka. In Nagaoka, we have Kyuryo koen. Kyuryo koen is very big park. We can enjoy white trumpoline. It's fun. We can see light up tree. It's beautiful. I like light up tree. We can enjoy pool. Pool is hot. We can eat colorful soft cream. It's delicious. We can see flowers. Do you like flower? Thank you!</p>
---	--

図3 児童Aの発表の変容

<p>【1回目】 Welcome to harashin. You can buy fresh food. It's delicious. We can go to night Harashin. It's ...I like ... You can buy red rice. It's delicious.We can buy aburaage. It's good.</p>	<p>【2回目】 Welcome to Nagaoka. It's nice spot, Harashin. Harashin's fresh food, delicious. We can go to night Harashin. I like red rice. It's very very delicious. We can buy Tochio aburaage. It's delicious. It's happy. Thank you!</p>
---	--

図4 児童Bの発表内容の変容

<p>【1回目】 Long river. Colorful. Beautiful.</p>	<p>【2回目】 You can see long river. It's beautiful. You can see colorful fireworks. It's beautiful.</p>
--	---

図5 児童Cの発表内容の変容

② パフォーマンステストの結果

パフォーマンステストの結果では、知っている言葉で表現することにチャレンジした児童が多く、思考・判断・表現がA評価となる児童は半数を超え、58%だった。一方、It's enjoy. / It's happy. などの正確性のミスや、使用した既習表現の偏りなどから、知識・技能がA評価の児童は29%にとどまった。

(3) 成果

① 本物のコミュニケーションの場の設定

グループ発表の内容や振り返りの記述から、留学生に発表するために、児童がよりよく伝わるよう表現を工夫していることがわかり、手立て①は有効であったと考える。

② 見方・考え方を働かせる学習過程

児童の振り返りの記述から、単元の序盤では言いたいことを伝えられず悶々としていた児童が、徐々に自分で言いたいことを伝えられるようになってきたと実感していることがわかる。また、パフォーマンステスト時には知っている語句を用いて伝えようと工夫した表現が個々の発表に見られた。よって、手立て②により児童が第1時から粘り強く取り組み続けた結果、知識を総動員し自分の言葉で話せるようになってきたのだと考える。

③ 児童の表現を引き出すためのICT機器の活用

単元終了後のアンケート結果から、児童の端末に送った他者の発表動画やチャンツの歌詞のスライドを、半数以上の児童が参考に行っていることが分かった。また、発表内容と事後アンケートから、多くの児童が他者の発表動画を参考にして様々な表現を取り入れた結果、5割を超える児童がパフォーマンステストの思考・判断・表現でA評価を得ることにつながったと思われる。よって、手立て③のICT機器の活用は、児童が他者の姿を参考にし、自分の表現の幅を広げる上で有効であったと考える。また、クラス全体で写真フォルダを共有することで、より多くの資料を効率的に集めることができた。一人一人がより多くの写真を使うことができたため、紹介する英文の分量も増えたものとする。

(4) 課題

① 児童の主体性を持続させる単元の指導計画の工夫

第3時の後半の活動では、おすすめスポットの紹介に児童がなかなか取り組み始めることができなかった。これは、ペアで取り組ませたため、児童一人一人が本当に紹介したい場所を選ぶことができなかったからだと考えられる。また、第2次のグループ学習では留学生に直接紹介するという明確な相手意識・目的意識があったが、第3次ではクラスメイト同士の発表になったため、相手意識が薄れているように見られる場面もあった。児童が単元の最後まで学習に主体的に取り組むことができるよう、個人での発表の際の目的・場面・状況を改めて明確にするなど単元計画を再度検討する。

② 英語表現の正確性の担保

パフォーマンステストでは、知識・技能でA評価の児童が3割弱にとどまった。これは、中間指導で英語表現の正確性の指導が不十分であったためだと考える。児童の自由で柔軟な発想を受け止めつつ、より適切な表現を身に付けるための指導を意識していく。

③ 多様な表現のインプットと活用

知識・技能のA評価が少なかったもう一つの要因が、使用した英語表現の偏りである。デジタル教科書のリスニング教材では、I usually go to ~. といった頻度を表す表現や、Many people visit ~. など、三人称を主語とする表現もあったが、Teacher Talk での表現を使わなかったため、児童の発表にもほとんど見られなかった。また、Do you know

～? などのやり取りは Teacher Talk でも頻繁に取り入れていたものの、指導するクラスによって活用状況に差が見られた。多様な表現を児童が自在に使えるようになるよう、児童の実態に合わせた資料の提示方法や Small Talk での活用方法などを今後研究していく。

<参考・引用文献>

文部科学省.『小学校学習指導要領解説 外国語活動・外国語編』.開隆堂.2017